

令和6年度 大阪府立高津高等学校 第3回学校運営協議会 会議録

日 時： 令和7年3月24日（月）16時00分～17時10分

場 所： 本校校長室

出席者： 委員長 森田 英嗣（大阪教育大学 教授）

委 員 古門 真一（大阪府立高津高等学校 同窓会副会長）

竹村 伍郎（NPO法人 まち・すまいづくり 理事長）

山崎 晃昭（近畿大学 特任教授）

事務局 寺本 圭一（校長）、大谷 則明（事務長）、

前川 紘紀（首席）、中原 章太（首席）、二階堂 泰樹（進路部長）、

尾崎知佐子（企画広報部長）、我那霸 繁子（記録係）

1. 学校長挨拶

お忙しい中お集まりいただき、ありがとうございます。年度内行事は本日で終了しました。

【中原首席より委員の紹介】

2. 学校からの説明（校長より）

①大学合格状況について（二階堂進路部長より説明）

* 77期生は新課程であったが特にマイナスの面はなかった。

* 共通テストについては8割以上の得点率が昨年の16.3%から31.9%にアップ、人数では48名から97名に増えた。

* 10校比較でも10校中4位と健闘した。

* 公立大学の出願が増えた。合格者も昨年より多い。国公立大学は23大学、全体では50以上の大学に出願した。

* 77期の特徴は1年時のスタサポの成績が良かったことと安全志向であった。

* 私学は昨年並みであった。

(質疑応答)

森田：先生方の学びは？

我那霸：3年担任としてなら、よく頑張っていたと思う。頑張れば伸びると実感した。

竹村：公立大が改編で落ち着かないと聞いた。声掛けを。

二階堂：フィードバックを考えてもよい。

山崎：1年からの積み重ねが大切を感じた。推薦が増えると教員の負担も大きいのでは？

②令和6年度学校教育自己診断結果について（校長より説明）

一人1台端末等の活用、講習の充実、自治会活動の数値が上がった。

③令和6年度「学校経営計画」について

1 (1) について講習の充実、国公立大学への現役生合格の目標は達成した。

(2) 課題研究については本校卒業生の名古屋市立大学理事の郡先生にご講演いただき好評であった。海外との交流もコロナ後復活している。

(質疑応答)

山崎：自治会の数値が上がったのは？

尾崎：質問の仕方をわかりやすく明確にした。

山崎：トイレの問題は前よりはまだましにはなったが。

大谷：特に体育館の下のトイレが古いが、予算がないのでしかたがない。

山崎：補習、講習の満足度が上がっているのは？

中原：学年のきめ細かい指導の成果では。

竹村：1年企業訪問の訪問先の見直しはどうか。本町あたりにも新しい企業が多くできている。

前川：新しい企業という発想はない。「働くとは何か」をコンセプトにしている。

森田：コロナの影響は？

校長：海外研修も復活したので問題はない。

山崎：大阪府の海外姉妹校、海外留学生の補助は？

校長：予算は確保しているようだ。

【令和7年度の学校経営計画（案）も認められる。】

④スクールデザイン（仮称）について（校長より）

夏までに作成するようになる。校長会では宣伝PRの要素に難色を示している。本校ではスクールマップがあるのでそれを中心に考える。

3. 質疑応答

竹村：「高津ならでは」がもう一つ欲しい。高津の立地は歴史あるものなので、1年生の間に能舞台などを見せるのもよい。

竹村：定員割れについては？

校長：10校も影響を受けている。

森田：宣伝が必要？各学校の特徴が求められているのか。

校長：特徴がないのが公立高校だった。

森田：地元の良さのようなものが出来れば。お金は出ないが。

竹村：教育環境でマンションなどが建つ。ないない尽くしの中で魅力は立地。高津の強みだと思う。

校長：大学合格実績も上がったがどう生徒を集めるかが課題。中学生だけでなく小学生にもアピールする方法を模索中である。

【中原首席より次年度の会議予定】

令和7年第1回6月、第2回11月、第3回3月